

日本学術会議
政治学委員会民主主義の深化と退行に関する比較政治分科会（第26期・第5回）
議事要旨

開催日時 2026年2月19日（木）12:00～13:49

開催場所 オンライン開催の遠隔会議（Zoom ミーティング）

出席者：大串和雄（委員長）、宇山智彦、鈴木基史、遠藤貢、粕谷祐子、久保慶一、竹中千春、中田瑞穂、野田昌吾、三浦まり

欠席者：武田宏子、宮本太郎

配付資料

1. 議事次第
2. 公開シンポジウム「女性の政治参画を進めるために：議会と政党は何をすべきか」申請書
3. 記録「民主主義の後退に関する検討の記録」（案）

議事概要

1. 見解「女性の政治参画を進めるための制度改革と環境整備について」の発出及び関連する今後の活動について

三浦委員から、昨年5月13日に開催したジェンダー法分科会との合同分科会以後の、見解発出及び関連することがらについて報告があった。9月から3段階の査読を経て、11月17日に日本学術会議のウェブサイトを通じて公開された。発出とともに、プレスリリースが行われ、メディアの反応もあった。また、英文の要旨が今年1月にウェブサイトに公開されたことも報告された。

2. 記録「民主主義の後退に関する検討の記録」について

民主主義の後退に関する一連のイベントや研究会を題材として作成し、あらかじめ回覧に付した「記録」の原案について審議した。審議の結果、微修正を前提として、記録（案）が承認された。

3. その他

(1) 日本学術会議の動向について

・鈴木会員から、新日本学術会議法の下での会員・連携会員の選考方法について「日本学術会議会員予定者の候補者の推薦依頼書」をもとに説明が行われた。従来の選考チームに加えて、新たに新興・分野横断分野の選考チームを設けること、また、従来の3部制は維持されることが説明された。

・宇山会員から、会員・連携会員の選考方法を含む学術会議の動向について補足説明として、第25-26期連携会員（令和8年9月末に任期満了となる連携会員）については、新たな選考を行わず満了後連携会員を自動的に6年継続する方向で調整されていることが説明された。

(2) 次回の分科会

大串委員長より、第26期中に「見解」のフォローアップ・レポートの審議をする予定があることが説明された。